

健康はキョーリンの願いです。

第59期 株主通信 | 平成28年4月1日～平成29年3月31日

Kyorin 



キョーリン製薬ホールディングス株式会社

私たちキョーリン製薬グループは、新たな発想で「変革」に挑戦し、
長期ビジョン「HOPE100」の実現を目指します。

平素よりキョーリン製薬グループに対しまして格別のご理解とご支援を賜り、誠に有難うございます。

当社グループの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第59期の事業の概況をご報告申し上げます。

当社グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を書き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念の具現化に向け、当社グループの中核企業である杏林製薬(株)の創業100周年(平成35年)をみすえた長期ビジョン「HOPE100」を策定し、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に取り組んでおります。

長期ビジョン「HOPE100」では、医療用医薬品事業とヘルスケア事業を複合的に組み合わせ、事業リスクの分散を図り、健全かつ持続的に成長する「健康生活応援企業」への進化を目指します。

平成28年度にスタートしました中期経営計画「HOPE100—ステージ2—(平成28年度～31年度)」では、環境が大きく変化していく中で、さらなる成長を果たすためには、過去の延長線上ではなく、新たな発想で変革に挑戦することが求められます。

今後の環境変化をいち早く捉え、意識を変え、業務の変革を成し遂げ、目標達成に向けて、グループ社員が一丸となり全力で取り組んでまいります。

引き続き、なお一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

長期ビジョン「HOPE100(平成22年度～35年度)」
HOPE: Aim for Health Of People and our Enterprises

キョーリン製薬グループは、ヘルスケア事業を多核的に展開・発展させ、社内外に認められる健全な健康生活応援企業へと進化します。

中期経営計画

「HOPE100—ステージ2—(平成28年度～31年度)」

事業戦略 Strategy

- ①創薬力の強化
- ②新薬群比率の向上
- 重点戦略 ③特色を活かしたジェネリック事業の推進
- ④ローコスト強化
- 育成戦略 ①海外進出
- ②ヘルスケア事業

組織化戦略 Organization

- ・人材マネジメントシステムの構築・運用
- ・人材育成の強化

成果目標 Performance

数値目標 連結売上高 年平均成長率 **3%**以上
連結営業利益率 **15%**以上

資本政策と株主還元 成長投資と安定的な株主還元が両立する資本政策



代表取締役会長
山下 正弘

代表取締役社長
穂川 稔

中期経営計画 「HOPE100—ステージ2—(平成28年度～31年度)」

事業戦略

■ 重点戦略

① 創薬力の強化

継続的に革新的な新薬を生み出す体制を構築し、ファースト・イン・クラス創薬への取り組みを進めます。具体的には、FC領域における新奇な創薬ターゲットを見出すとともに、低分子をベースにした既存の創薬プラットフォームと、ペプチドや遺伝子治療といった新技術の活用により、ファースト・イン・クラスの新薬を創出します。さらに、オリジナル新薬のグローバルな展開と開発の加速化に向けて、パートナーとの早期の提携を目指します。

② 新薬群比率の向上

新薬群の普及の最大化によって、平成31年度には新薬群比率を50%以上まで向上させます。特許切れを迎える「キプレス」の落ち込みを、新薬群の伸長によって乗り切っていくために、3成分4製品(アレルギー性疾患治療剤「デザレックス」、キノロン系合成抗菌剤[KRP-AM1977X(経口剤)及びY(注射剤)]、過活動膀胱治療剤[KRP-114V])を「ステージ2」の期間内に上市させるとともに、「フルティフォーム」と併せて製品普及の最大化を目指します。

③ 特色を活かしたジェネリック事業の推進

自社で開発・生産・販売を行っていることに加え、グループ内に杏林製薬(株)という新薬を扱う企業を有するという特性を活かし、オーソライズド・ジェネリック(以下、AG)を積極的に取り扱っていきます。キプレスのAGであるモンテルカスト錠[KM]のジェネリック医薬品市場での高いシェア獲得を目指すとともに、新たなAGの獲得も視野に入れていきます。

④ ローコスト強化

グループ内最適化によるコスト構造の変革を行います。新薬を扱う杏林製薬(株)能代工場、MSD製品を含め様々な製品を扱うキョーリン製薬グループ工場(株)、ジェネリック医薬品を扱うキョーリン リメディオ(株)井波工場、3つの性格の異なる工場の協業による全体最適化を進め、新薬群、先発品群、後発品群の枠を超えて適切な場所で製造を行うことで、工場稼働率の平準化と資産の効率活用を図っていきます。

■ 育成戦略

① 海外進出

世界の人々にオリジナル新薬を届けるための取り組みを展開します。具体的には、欧米展開は他社とのパートナーングにより自社で創出した革新的な新薬のグローバルな展開を推進し、海外売上上の獲得を目指します。また、他社との協業を通じてアジアを中心に将来の直接的進出の礎を築きます。

② ヘルスケア事業

環境衛生に関わる事業(環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」)を成長させるとともに、既存事業との連携強化を図り、核となる事業の創出に取り組みます。また、次の核となる候補の道筋をつけていきます。

組織化戦略

当社グループは、社員を大切に、人と組織を活性化することが、事業戦略を遂行し、成果を具現するための最重要課題と位置づけています。「ステージ2」においても、社員にとって「働きがいNo.1企業」の実現を目指し、人材マネジメントの基本方針のもと、採用、配属、育成、評価、異動、報酬、福利厚生等、グループ各社の人材マネジメントシステムの再構築と人材育成の強化に取り組みます。

中期経営計画 「HOPE100—ステージ2—」平成28年度(当年度)の進捗と平成29年度の取り組み

事業戦略

① 創薬力の強化

当社グループとしては、最重要課題と考えており、わたらせ創薬センターとActivX社による自社創薬に、国内外の製薬企業、アカデミア、ベンチャー企業とのオープンイノベーションを重ねることで、既存創薬プラットフォームの活性化、新技術(ペプチド、遺伝子治療など)活用に努めました。今後ともオリジナル新薬の創製に向けて、ファースト・イン・クラス創薬に拘り、確実に歩みを進めます。

② 新薬群比率の向上

ステージ2の期間内に4つの新製品を上市させ、既上市品である喘息治療配合剤「フルティフォーム」と併せて製品普及の最大化を目指しています。平成29年度は、当年度に発売したアレルギー性疾患治療剤「デザレックス」の早期普及に取り組むとともにキノロン系合成抗菌剤[KRP-AM1977X]、過活動膀胱治療剤[KRP-114V]の申請・承認・上市に向け最大限、注力してまいります。

③ 特色を活かしたジェネリック事業の推進

モンテルカストAGを当年度に発売し、グループとしてAGへの取り組みを開始しました。今後、次なるAGの展開を推進してまいります。

④ ローコスト強化

グループ内生産体制の統合を目的に新生産子会社を設立し、当社グループの生産機能を集約する方針を平成29年5月11日に決定いたしました。今後、工場稼働率の平準化と資産の効率活用に取り組み、引き続き高品質の製品を安定的かつ低コストで供給する競争力のあるグループ生産体制の構築に努めてまいります。

育成戦略

環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」と当年度に販売を開始した手指衛生製品群に注力し、環境衛生に関わる事業をさらに拡大させ、核となる事業への成長を図ってまいります。

■ 当期の概況

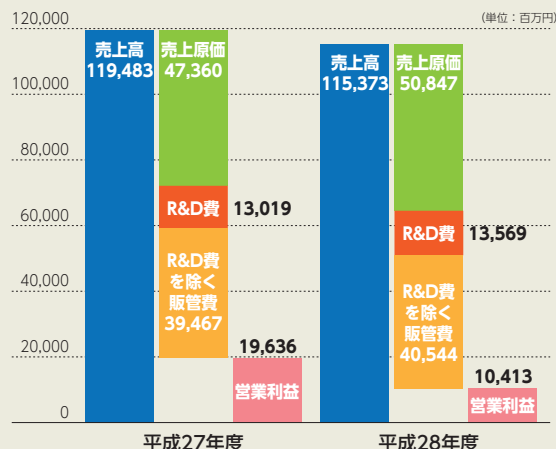
当連結会計年度における国内医薬品業界は、平成28年4月に実施された薬価改定等の影響により市場は低調に推移しました。また、主力製品の特許満了への対応など、これまでにない企業行動が必要な局面を迎えました。さらに、平成28年12月に策定された薬価制度の抜本改革に向けた基本方針のもと、具体的な検討がスタートし、将来的に厳しい事業環境を予想させる一方、イノベーション評価の加速化を図る取り組みについても議論され、研究開発支援を期待させる動向もありました。ヘルスケア事業を取り巻く環境は、景気は緩やかに持ち直したものの、個人消費は横ばいにとどまり、依然、不透明感を払拭できない状況が継続しました。

このような状況下、当社グループは、長期ビジョン「HOPE100」の実現に向けて、平成28年度を初年度とする中期経営計画「HOPE100—ステージ2—（平成28年度～平成31年度）」のもと、医療用医薬品事業では持続成長を可能とする医薬事業モデルの進化に取り組み、ヘルスケア事業では核となる事業作りを推進し、成果目標の達成とステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上に努めました。

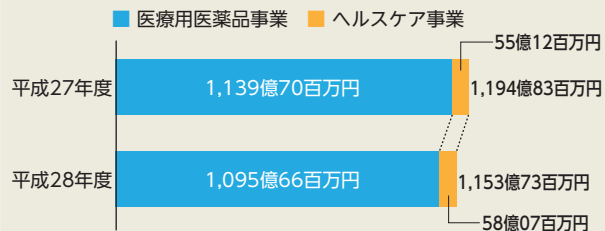
当連結会計年度の業績は、薬価改定の影響、長期収載品の処方数量減により新医薬品（国内）の売上は減少しましたが、モンテルカストAGの発売等により後発医薬品の売上は増加し、国内における医療用医薬品事業の売上は前期を上回る実績で推移しました。他方、新医薬品（海外）の売上は前期に計上したライセンス契約に関わる一時金収入の反動減を要因として減少し、売上は前期を下回りました。この結果、当連結会計年度の売上は、1,153億73百万円と前期比41億09百万円（前期比3.4%減）の減収となりました。

利益面では、薬価改定及び導出品の一時金収入の減少等により売上総利益は前期に対して75億95百万円減となりました。販売費及び一般管理費は前期に対して16億27百万円増加（内、研究開発費5億49百万円増）したことから、営業利益は、104億13百万円（前期比47.0%減）の減益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、導出品（ガチフロキサシン点眼液）に関する米国反トラスト法違反を理由とした訴訟の和解関連費用約10億円を特別損失として計上したことから、73億05百万円（前期比46.4%減）となりました。

■ 損益の概要



■ セグメント別売上高



■ 平成30年3月期連結業績予想（通期）（平成29年5月11日公表数値）

売上高	1,134億円	（前期比 1.7%減）
営業利益	121億円	（前期比 16.2%増）
経常利益	126億円	（前期比 15.9%増）
親会社株主に帰属する当期純利益	97億円	（前期比 32.8%増）

セグメントの状況

医療用医薬品事業

国内新医薬品 主力製品では、喘息治療配合剤「フルティフォーム」の売上が前期に対して増加しました。他方、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」につきましても、特許満了を迎え売上は減少しました。また、長期収載品である潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」も前期を下回りました。

杏林製薬(株)は、特定領域(呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科)の医師、医療機関に営業活動を集中するFC(フランチャイズカスタマー)戦略の進化、エアーマネジメントを軸とした営業戦略の実行という方針のもと、急激な事業環境の変化に対応しつつ、既存の主力製品については普及の最大化に、新製品については製品特性の早期浸透に取り組みました。アレルギー性疾患治療剤「デザレックス錠5mg」を平成28年11月に新発売し、耳鼻科領域のプレゼンス向上に努めました。なお、同薬剤について科研製薬(株)と皮膚科の医師・医療機関を対象とするコ・プロモーション(共同販促)契約を締結し、両社で早期普及に取り組みました。また、MSD(株)が製造販売している定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤「ナゾネックス点鼻液50μg」について、同社とコ・プロモーション契約を締結し、同年11月よりプロモーション活動を開始しました。当社グループは、積極的なライセンス活動を展開することにより、重点領域での製品ラインナップ拡充を図り、引き続き同領域での高いプレゼンス確立を目指します。これらの結果、売上高は837億77百万円(前期比9.9%減)となりました。

海外新医薬品 前期に計上した米国ブリストル・マイヤーズスクイブ社とのライセンス契約に関わる一時金収入の反動減、広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン(導出先:米国アラガン社)」のロイヤリティ収入の減少により、売上高は7億64百万円(前期比86.3%減)となりました。

後発(ジェネリック)医薬品 杏林製薬(株)の主力製品である気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」の特許満了に対応すべく、平成28年9月にキョーリン リメディオ(株)より「モンテルカスト錠10mg・5mg「KMJ」(杏林製薬(株)及びMSD(株)が販売している「キプレス」及び「シングレア」のAG)を発売し、その売上が大幅な増加要因となりました。また、政府が掲げる後発医薬品に係る数量シェア80%という目標の実現に向け、後発医薬品使用促進策が実施されるなか、同剤以外の売上も伸長し、売上高は250億24百万円(前期比62.0%増)となりました。

この結果、当セグメントの売上高は1,095億66百万円(前期比3.9%減)となり、セグメント利益は101億06百万円(前期比48.5%減)となりました。

ヘルスケア事業

スキンケア製品の売上は前期を下回りましたが、環境衛生、一般用医薬品他の売上は、主要製品である環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」、哺乳びん・乳首・器具等の消毒剤「ミルトン」の伸長、新製品(一般用

医薬品等)の発売により増加しました。環境衛生に関わる事業の強化策として、杏林製薬(株)は日本エア・リキード(株)と手指衛生製品群の日本市場における販売業務提携に関する契約を平成29年1月に締結し、同3月より製品の販売を開始いたしました。ヘルスケア事業の核を作るべく、今後とも環境衛生における製品ラインアップ拡充に努めます。

この結果、当セグメントの売上高は58億07百万円(前期比5.3%増)となり、セグメント損失は1百万円(前期はセグメント損失1億87百万円)となりました。

なお、スキンケア製品を主に取り扱うドクタープログラム(株)について、平成29年4月1日に同社の全株式を大正製薬(株)に譲渡いたしました。B to Cに強みを持つ企業の傘下でビジネスを進めることが、より同社事業の発展に資すると判断いたしました。

研究開発の状況につきましては新薬メーカーにとっては、未だ数多く存在するアンメットメディカルニーズに応え、世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を継続的に創出し届けることが使命です。オリジナル新薬の創製こそが真の成長の原動力であり、新薬事業の強化が当社グループの存在意義を高め、持続成長に結びつくとの認識に基づき、自社創業を中心に導入品の開発等にも取り組み、特定領域(呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科)における開発パイプラインの拡充、新薬開発の早期化に最大限、注力しました。

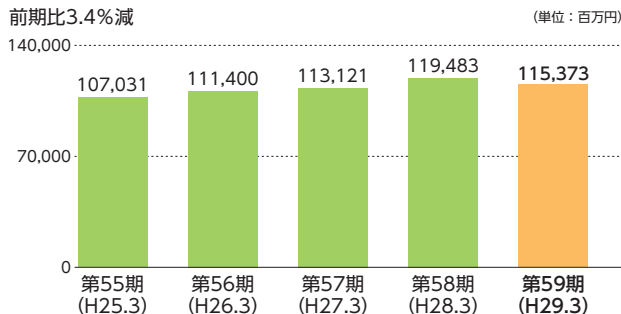
国内開発の進捗状況としましては、間質性膀胱炎治療剤「KRP-116D(一般名:ジメチルスルホキシド)」のPh(フェーズ)Ⅲ臨床試験を平成29年3月より開始しました。平成26年3月期に医療上の必要性の高い未承認薬に該当するジメチルスルホキシドについて、開発を進めることを決定しており、当該臨床試験の開始に至りました。また、キノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977X」については、平成29年4月、製造販売承認を厚生労働省に申請いたしました。

自社創業におきましては、平成27年7月に開設した「わたらせ創業センター」での活動も軌道に乗り、基礎研究領域(炎症・免疫・感染症)をベースに特定の疾患領域にフォーカスした創薬研究を推進いたしました。今後とも、特定領域への集中、製薬他社やアカデミアとの協業など効率的かつ活発な研究開発活動に努めてまいります。

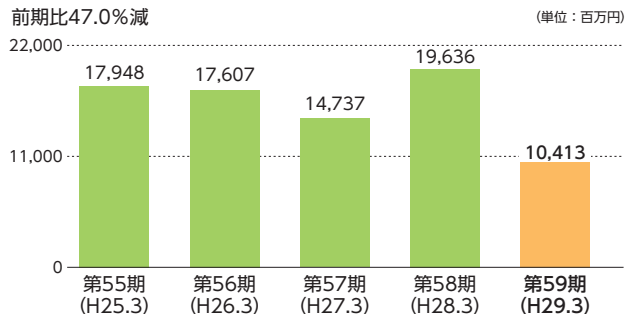
以上の結果、研究開発費は135億69百万円(前期比4.2%増)となりました。

平成29年3月期第1四半期連結累計期間より、当社グループは報告セグメントの区分を変更しております。変更後の「医療用医薬品事業」の内容は新医薬品、後発医薬品、「ヘルスケア事業」はスキンケア・環境衛生・一般用医薬品他で構成しています。前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

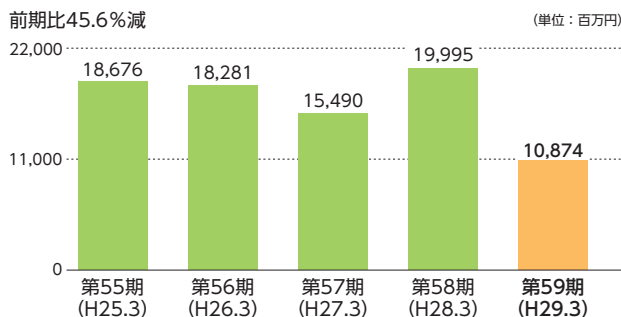
売上高 115,373百万円



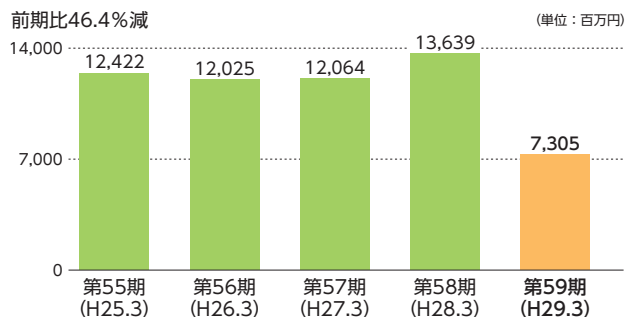
営業利益 10,413百万円



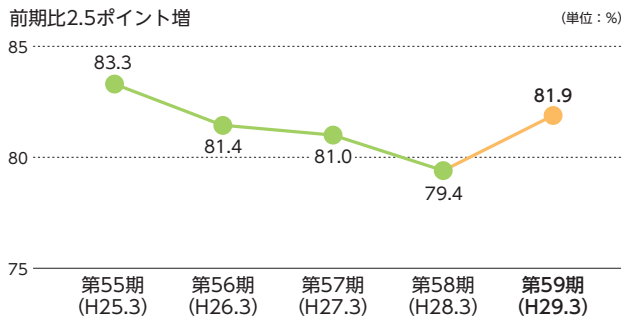
経常利益 10,874百万円



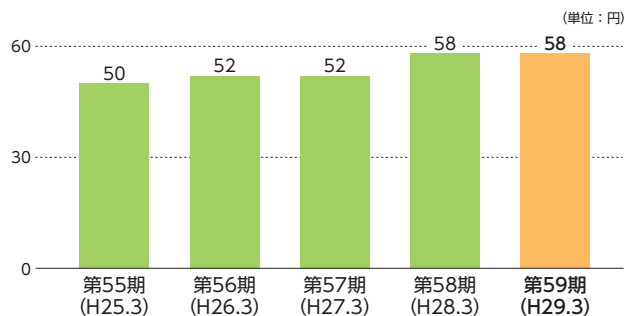
親会社株主に帰属する当期純利益 7,305百万円



自己資本比率 81.9%



配当金 58.00円



連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

	当期末 平成29年3月31日現在	前期末 平成28年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	126,267	138,483
固定資産	66,400	59,342
有形固定資産	22,432	22,788
無形固定資産	1,204	1,201
投資その他の資産	42,763	35,353
資産合計	192,668	197,825
【負債の部】		
流動負債	25,033	28,052
固定負債	9,797	12,723
負債合計	34,831	40,776
【純資産の部】		
株主資本	152,585	149,808
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	150,301	147,331
自己株式	△3,168	△2,975
その他の包括利益累計額	5,251	7,241
純資産合計	157,837	157,049
負債純資産合計	192,668	197,825

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

	当期 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで	前期 平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで
売上高	115,373	119,483
売上原価	50,847	47,360
売上総利益	64,526	72,122
販売費及び一般管理費	54,113	52,486
営業利益	10,413	19,636
営業外収益	510	531
営業外費用	49	172
経常利益	10,874	19,995
特別利益	48	1,940
特別損失	1,205	3,120
税金等調整前当期純利益	9,716	18,815
法人税、住民税及び事業税	1,597	5,191
法人税等調整額	814	△15
当期純利益	7,305	13,639
親会社株主に帰属する当期純利益	7,305	13,639

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

	当期 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで	前期 平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	16,386	11,137
投資活動による キャッシュ・フロー	△13,142	650
財務活動による キャッシュ・フロー	△5,721	△2,245
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△65	△226
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△2,543	9,315
現金及び現金同等物の 期首残高	45,043	35,727
現金及び現金同等物の 期末残高	42,499	45,043

主要子会社である杏林製薬(株)の主な取扱品目

当社グループの杏林製薬(株)は、魅力のある新薬の創製に努めるとともに呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科を重点領域として医療用医薬品事業を中心に展開しています。同社の主要取扱品目は下記のとおりです。

新発売



持続性選択H₁受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤
デザレックス[®]



気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤
キプレス[®]



喘息治療配合剤
フルティアフォーム[®]



気道粘液調整・粘膜正常化剤
ムコダイン[®]



潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤
ペンタサ[®]



過活動膀胱治療剤
ウリタス[®]

脳血管障害・気管支喘息改善剤
ケタス

胃炎・胃潰瘍治療剤
アプレース

広範囲抗菌剤
バクシダール

哺乳びん殺菌消毒剤
ミルトン

環境除菌・洗浄剤
ルビスタ

Ph (フェーズ) I ~承認 (上市)

製品名・開発コード	薬効	起源	特徴	開発段階					
				フェーズⅠ	フェーズⅡ	フェーズⅢ	申請	承認	
KRP-114V	過活動膀胱	米国 メルク社	<ul style="list-style-type: none"> 従来の過活動膀胱治療薬と比較して、副作用が少なく、服薬コンプライアンスが高まることが期待される β3受容体作動薬として、薬物相互作用が少ない 本剤が分類されるβ3作動薬は、過活動膀胱治療におけるファーストラインとなる可能性がある 	国内				申請準備中	
KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系 合成抗菌剤	自社	<ul style="list-style-type: none"> 75mg 1日1回投与で優れた臨床効果を確認(市中呼吸器感染症・耳鼻咽喉感染症) 呼吸器、耳鼻科感染症の起炎菌、及びβラクタム系・マクロライド系抗菌薬耐性株に対して強力な抗菌活性を示す 血漿比10倍を超える肺組織への良好な移行性 	国内				H29年4月	
KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系 合成抗菌剤	自社	<ul style="list-style-type: none"> 高い安全性が期待される 同系統の抗菌剤で懸念される、血糖値異常、光線過敏症、関節障害、消化器症状などを引き起こす可能性は低い 	国内				H28年3月	
KRP-116D	間質性膀胱炎 治療剤	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」	国内				H29年3月	
KRP-209	耳鳴	ドイツ メルツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	国内				H27年8月	
Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	国内				H27年7月	Ph I / II

【導出品】

KRP-203	移植片対宿主病 (GvHD)	自社	S1P受容体アゴニスト。免疫調整剤	海外				ノバルティス	
—	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	海外				※前臨床(米国プリストル・マイヤーズスクイブ社)	

【参考】

デザレックス (デスロラタジン)	アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症)に伴うそう痒		第二世代ヒスタミンH ₁ 受容体拮抗薬(杏林製薬㈱が日本国内における独占販売権を取得/MSD㈱より)	国内					H28年11月上市
---------------------	--	--	---	----	--	--	--	--	-----------

開発プロセスの概要

フェーズⅠ

(第Ⅰ相試験)

同意を得た少数の健康人志願者を対象に、安全性のテストを行う臨床試験

フェーズⅡ

(第Ⅱ相試験)

同意を得た少数の患者さんを対象に、有効で安全な投薬量や投薬方法などを確認する臨床試験

フェーズⅢ

(第Ⅲ相試験)

同意を得た多数の患者さんを対象に、既存薬などと比較して新薬の有効性及び安全性をチェックする臨床試験

申請

有効性・安全性が確認された新薬の製造販売承認を厚生労働省に申請

会社概要 (平成29年3月31日 現在)

商号	キョーリン製薬ホールディングス株式会社 (英文: KYORIN Holdings, Inc.)
事業内容	創薬ビジネス・医薬事業等を営む子会社を中心とするグループ全体の経営戦略機能を担う持株会社
本社所在地	〒101-8311 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
設立	昭和33年(1958年)
資本金	7億円
従業員	121名(連結2,382名)

株式の状況

発行可能株式総数	297,000,000株
発行済株式の総数	74,721,435株 (自己株式226,193株を除く)
当期末株主数	5,837名

役員 (平成29年6月23日 現在)

取締役及び監査役	代表取締役会長	代表取締役社長	専務取締役	常務取締役	常務取締役	取締役	取締役	取締役	取締役(社外)	取締役(社外)	取締役(社外)	常勤監査役	常勤監査役	監査役(社外)	監査役(社外)	監査役(社外)
	山 下 正 弘	穂 川 稔	松 本 春	荻 原 豊	荻 原 茂	阿久津 賢 二	笹 原 弥	大野田 道 郎	鹿 内 徳 行	重 松 健	後 藤 陽	宮 下 征 佑	羽 磨 寛 晃	小 幡 雅 二	小 西 勇 二	山 口 隆 央

執行役員	上席執行役員	上席執行役員	執行役員	執行役員
	伊 藤 洋	高 橋 敬	二 井 康 夫	小 尾 紀 行

キョーリン製薬グループ各社の概要(連結子会社) (平成29年6月23日 現在)

杏林製薬株式会社

<http://www.kyorin-pharm.co.jp/>

キョーリン製薬グループにおける中核企業として、創薬ビジネスに注力し、革新的新薬を創製することで新薬メーカーとしての使命を果たし、かつ早期にビジネス展開していくことで医療用医薬品事業の競争力強化を図っています。

主な事業内容

創薬研究 | 研究開発 | 製造 | 販売



わたらせ創薬センター



能代工場

キョーリン メディカルサブライ株式会社

<http://www.kyorin-ms.co.jp/>

医薬品に関連する広告の企画制作等を中心に、多岐にわたるコミュニケーションビジネスを手掛けると共に、環境衛生に関わる事業に積極的に取り組み、健康生活応援企業を目指すグループの一員として社会に貢献していきます。

主な事業内容

環境衛生 | 販売促進 | 広告物の企画制作



キョーリン リメディオ株式会社

<http://www.kyorin-rmd.co.jp/>

「信頼されるジェネリック医薬品企業」を目指し、品質保証・安定供給・情報提供を徹底し、患者さんが安心して服用できる特色のある後発医薬品の提供に取り組んでいます。

主な事業内容

研究開発 | 製造 | 販売



キョーリン製薬グループ工場株式会社

<http://www.kyorin-fc.co.jp/>

MSD(株)から取得した医薬品生産に関する資産をもとに、医療用医薬品の製造に関する事業を行っています。今後も高品質な製品の安定的提供、製造技術の向上とコスト効率化を目指していきます。

主な事業内容

製造 | 販売



※ドクタープログラム株式会社は平成29年4月1日付で当社が保有する株式の全てを譲渡したことにより、連結子会社でなくなりました。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月に開催
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人 (特別口座管理機関) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

(お問合せ先) 〒168-8507
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほ証券株式会社
本店及び全国各支店

公告掲載紙 日本経済新聞

(ご注意)

1. 口座管理機関(証券会社等)の口座に株式をお預けの株主さまの場合
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、お取引の口座管理機関(証券会社等)が窓口となります。
株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんので
ご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式をお持ちの株主さまの場合
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、みずほ信託銀行証券代行部(株主メモ参照)にお問合せ願います。
3. 平成29年6月5日付で発送いたしました第59回定時株主総会招集ご
通知に同封の「配当金計算書」は、確定申告の際の参考資料としてご
利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主さまにつ
きましては、お取引の証券会社にご確認ください。
4. 未受領の配当金につきましては、左記お取扱店(株主メモ参照)及びみ
ずほ銀行本店・全国各支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内 <http://www.kyorin-gr.co.jp/>



株主の皆さまにタイムリーな情報をお届けいたしておりますのでぜひご覧ください。

ホームページサイト

キョーリン製薬グループについて	企業理念・長期ビジョン、目指す企業像、中期経営計画 等
グループ事業	トップメッセージ、グループの歴史、グループの全体像、価値創造プロセス、事業の概要 等
株主・投資家情報	中期経営計画、研究開発パイプライン、財務・業績、IRライブラリ、株式情報 等
CSR活動、企業情報	等

株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4569

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を呈呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問合せ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

〒101-8311
東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
TEL:03-3525-4700(代)



PROJECT-
With the Earth
この冊子の印刷・製本に係るCO₂を
PROJECT-With the Earth を
通じてオフセット(相殺)しています。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

